URUMA ACADEMY 2010

うるまアカデミー

「うるまらしさ」って何だろう？

闘牛技紹介

うるま市は沖縄県内でも闘牛の盛んなまちとして知られており、全島闘牛大会や準全島大会などが開催され、多くの闘牛ファンが訪れています。平成 19 年 5 月には天候に左右されることなくイベントが開催できる石川多目的ドームが落成。2,000 人～ 5,000 人収容できる同ドームは、闘牛大会をはじめ、多方面で活用されています。

沖縄における闘牛の起原について詳しいことはわかっていません。少なくとも明治後期には行われていたことが当時の新聞記事により確認されています。戦争により中断の後、昭和 22 年に大会が再開され、一時はテレビ放送もされるなど、幅広いファンを獲得していました。

その後、レジャーの多様化、都市生活の進展に伴う闘牛場の整理等により、一時ほどの盛況さはなくなったものの、その人気は根強く、現在でも沖縄本島中部のまつりの核として行われています。

沖縄の闘牛は、スペインの闘牛のように人と牛が闘うものではなく、牛同士を一対一で闘わせるもので、対戦中、牛の側には闘牛市（勢子と呼ばれている）がいて、闘いを鼓舞します。

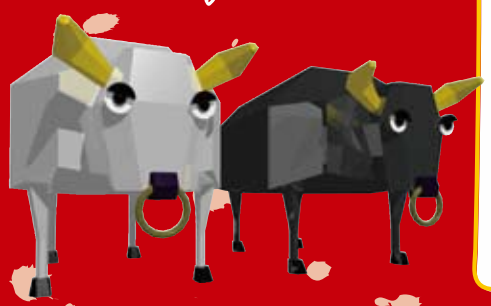
闘牛として育った牛は小さな頃から毎日トレーニングを欠かさず、30 分以上歩いて足腰を鍛え、土の出た崖に角を推しつけて、角・首・肩などを鍛え、闘牛の最高位である「横綱」を牛主と共に二人三脚で目指します。

迫力ある牛同士のぶつかり合いの中で、牛が放つ数々の技も闘牛には欠かせない要素です。牛の得意とする技と併せて、牛の息づかいや牛のコンディションに注目しながら闘牛大会を観戦すると、より闘牛の醍醐味を楽しむ事ができます。

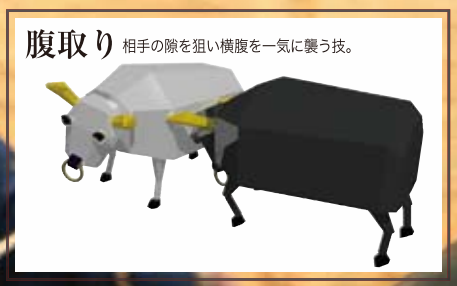
カケ 角を掛けて、相手の首を曲げる技。

迫力満点！巨体と巨体の真っ向勝負。

URUMA ACADEMY 2010
うるまアカデミー



闘牛 Bullfight



Bullfighting

Uruma City is a well known and popular location for bullfighting within Okinawa Prefecture. The All Okinawa Bullfighting Tournament, the semifinal tournament and other matches are held in Uruma City. Many bullfighting enthusiasts visit to enjoy these spectacles. In May 2007, the Ishikawa Multi-Purpose Dome was completed, enabling events to be held without weather concerns. The Dome, which has seating capacity for 2,000 to 5,000 people, is available for bullfighting tournaments and many other activities.

エイサー魂

Spirit of Ryukyu

URUMA ACADEMY 2010
うるまアカデミー

沖縄の夏を彩る風物詩エイサーは、旧盆の伝統芸能として長い歴史をもっています。一口にエイサーといっても、踊り方、衣装、楽器など、地域によって異なっており、その違いが大きな魅力になっています。うるま市は沖縄一のエイサーどころといっても過言ではありません。そして多様なエイサーが見られるのも、うるま市のエイサー文化の特徴です。

太平洋に突き出している与勝地域一帯は昔からエイサーの盛んな地域として知られています。なかでも平敷屋、平安名、内間、西原、与那城、饒辺のエイサーは「念仏踊り」を想起させる比較的地味な衣装と重厚な踊りが特徴。対照的に屋慶名、南風原は衣装を派手にし、隊列を複雑に変化させて踊ります。

石川は終戦直後の沖縄の政治・文化の中心地として栄えた地域で、1952年、第1回全島規模のエイサーコンクールが初めて開催されたのも石川でした。

具志川は沖縄市と与勝地域に挟まれ、沖縄市のエイサーのように締太鼓を使う地域と、与勝地域のようにパーランクーを使う地域が混在しているところに特徴があります。

合併以前は、石川青年エイサーまつり、具志川青年エイサーまつり、勝連祭り in エイサーフェスティバル、与那城あやはし祭りが、それぞれ開催されていましたが、2005年の市町村合併に伴い「うるま市エイサーまつり」として統合。多彩なエイサーが見られるイベントとして、多くのエイサーファンの注目を浴びています。

Eisa

The special attraction of Eisa, which lends color and flair to Okinawan summers, has a long history as the traditional performance art of the O-bon Festival. Summarized briefly, Eisa features dances, costumes, instruments and other aspects that differ according to the community where it is performed. These differences give rise to its tremendous appeal. It is not an overstatement to say that Uruma City is Okinawa' s premiere place for Eisa. One of the distinctive features of Uruma City' s Eisa culture is that it allows anyone to enjoy a variety of Eisa performances.

URUMA ACADEMY うるまアカデミー 2010

うるま偉人伝

Uruma Biography

うるま市の歴史に名を残した人たち

琉球王国時代から現代に至るまで、うるま市地域からは多くの偉人が輩出されました。
その中で、地域だけでなく沖縄の発展にも寄与した４人の偉人を紹介します。

Tales of Great Men

From the days of the Ryukyu Kingdom up through modern times, many eminent figures have emerged from the lands making up Uruma City. Here are four of the great people who contributed not only to the community, but also to the development of all of Okinawa.

笑いで戦後復興を支えた沖縄のチャップリン

小那覇　全孝（舞天）
おなは・ぜんこう（ぶーてん）
1897 ～ 1969　琉球芸能の達人

命のお祝いをしましょう

戦後、嘉手納より石川へ移住。本職は歯科医であったが、プロ顔負けの琉球芸能の達人。

終戦直後の荒廃したなか、三線を片手に家々を訪ね歩き「生き残った者が、元気を取り戻さないといけない。さあ､命のお祝いをしよう（ぬちぬぐすーじさびら）」と「笑い」と「ユーモア」で人々に生きる希望を与え続けた。後に沖縄のチャップリンと称され、戦後沖縄の芸能と地域社会の復興に多大な影響を与えた。

Zenko (Bu-ten) Onaha, 1897 ～ 1969

Zenko Onaha moved from Kadena to Ishikawa after World War II. He was a dentist by profession and such a skilled performer of Ryukyuan arts that he could put even professionals to shame.
Amidst the devastation right immediately after the end of the war, he would travel around carrying his sanshin went from house to house. With his smile and humor, he gave people the hope to live and carry on, saying “We survivors have to pick ourselves up and live again. Celebrate life (nuchinu-gusuji-sabira)!" He later came to be known as the “Charlie Chaplin of Okinawa.” Zenko Onaha had a tremendous influence on the post-war restoration of local communities and the performing arts in Okinawa.

沖縄再建に尽力した、人道学博士

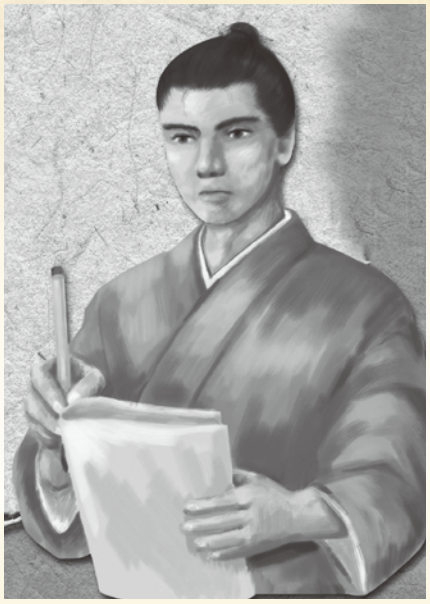
志喜屋　孝信　しきや・こうしん　1884〜1955　教育者
沖縄民政府初代知事

住民の利益と幸せを願って

沖縄県立第二中学校校長を経て、沖縄で初となる私立開南中学校を創設するなど、教育のために情熱を注いだ県教育界の第一人者。また、終戦後の昭和２１年、沖縄民政府の初代知事に就任し、戦後沖縄の復興に努めた。昭和２７年には琉球大学の初代学長に就任。多くの人材を世に送りだした。

Koshin Shikiya, Educator and First Governor of the Okinawa Civilian Administration, 1884 〜 1955

After serving as principal of the Okinawa Prefectural Daini Junior High School, he led the Okinawa educational community through his enthusiastic commitment to education, founding Okinawa' s first nongovernment institution, Konan Junior High School, among other achievements. He also took office as the first Governor of the Okinawa Civilian Administration in 1946, and devoted himself to the postwar recovery of Okinawa. In 1952, he was installed as the first president of the University of the Ryukyu. His dedication cultivated many, many talented people and sent them out to serve society.



沖縄芝居に影響を及ぼした、和文学者

平敷屋　朝敏　へしきや・ちょうびん　1700〜1734　和文学者

才能に恵まれながらも、波乱の人生を歩む

組踊「手水の縁」の作者。薩摩支配下における苦難の時代、士族という身分におごることなく、農民など弱い立場の人たちに温かい眼差しを向けることができた沖縄近世随一の和文学者。1727 年、脇地頭として平敷屋に配され、水不足に悩む農民のために溜池を掘削し、掘り起こした土を盛り上げて築いたのが「平敷屋タキノー」である。

Chobin Heshikiya, Scholar of Japanese Literature, 1700 〜 1734

Chobin Heshikiya authored the Kumi-odori dance "Temizu-no-Midori." He was the greatest scholar of Japanese literature in modern Okinawan history. During the period of hardship under the rule of the Satsuma Clan, he was modest about his status as a member of the samurai class and looked with warmth to farmers and others in need by providing them assistance. In 1727, he was stationed in Heshikiya as the steward of the land and dug reservoirs for farmers worried about water shortages. The "Heshikiya-takino" mound was built with the dirt removed to make these water basins.

護岸整備の必要性を訴え続けた、立役者

真鏡名　安明　まじきな・あんめい　1884〜1935　医師
県会議員

安定した人々の暮らしを目指して

医師として住民の健康管理を担う一方、地域の教育、行政、経済の発展に尽くそうと昭和４年に県会議員に立候補し当選。与那城地域の農耕地の保全を図るため、昭和８年から実施された「沖縄県振興 15 カ年計画」を当地域に誘致し、海岸線全域の護岸工事、耕地整理事業、土木農道、河川工事等に尽力した。

Anmei Majikina, Physician and Prefectural Assemblyman, 1884 〜 1935

As a physician, Anmei Majikina had the responsibility of caring for the health of residents, yet he also ran for and was elected to the Prefectural Assembly in 1929 with the goal of improving the regional economy, municipal administration and education. To preserve the farmlands in the Yonashiro district, he was able to have the area included in the Okinawa Prefecture 15-Year Promotion Plan. He devoted his energy to the work of constructing embankments along the entire coastal area as well as promoting farmland consolidation projects, public works programs, farm roads, and river projects.

URUMA ACADEMY うるまアカデミー 2010

うるま市の歴史

人と歴史が奏でる自然豊かなやすらぎと健康のまち

うるま市は平成17年(2005年)4月1日、具志川市、石川市、勝連町、与那城町の2市2町が合併して誕生した新しいまちです。

それぞれの歴史をふりかえってみましょう。

具志川市は豊富な水資源と肥沃で広大な土地に恵まれ、かつてはサトウキビの生産量で沖縄一を誇っていました。太平洋戦争後は、外国語学校、文教学校、農林学校などが次々に開校し、戦後沖縄の高等教育の中心地として発展した歴史をもっています。

石川市は、戦前までは一つの小さな農村でしたが、太平洋戦争中から戦後、米軍によって設置された難民収容所や琉球政府の前身である沖縄諮詢会、そして琉球民政府が設置されるなど、沖縄の政治・経済の中心地として発展してきました。

勝連町は、その昔、沖縄の古謡集であるおもろそうしの中で「肝高(きむたか)」(心豊か・気高い)と称され、大和の京や鎌倉にたとえられるほど、その繁栄が謡われたところです。特に勝連城主・阿麻和利の時代には日本や中国との交易などで最盛期を迎えました。また勝連城跡は平成12年(2000年)「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つとして世界遺産に登録されています。

与那城町には原始時代から人々が住み着いた、足跡が残っています。藪地島にある藪地洞穴遺跡から出土したヤブチ式土器は今から約6000年～7000年前のものとされ、沖縄県で最も古い土器といわれています。また、宮城島にあるシヌグ堂遺跡は、約2500年前の沖縄貝塚時代中期のもので沖縄最大の段丘集落跡です。与那城町は、尚寧王(しょうねいおう)の父親にあたる与那城王子尚懿(しょうい)が拝領地として授かった西原間切が、平田間切、与那城間切と改名を重ね、沖縄県島嶼町制の施行など、多くの歴史的な変動を経ています。

うるま市は2市2町の歴史と文化を引き継ぎながら、新たな歩みを刻んでいます。

History

Uruma City is a new city which was formed when two cities, Gushikawa City and Ishikawa City, as well as two towns, Katsuren Town and Yonashiro Town, were consolidated. Uruma City has been carving out a new path as it carries on the history and culture of these two cities and two towns.

うるま市年表　Uruma history

2005

4月1日　具志川市、石川市、勝連町、与那城町が合併し、新生「うるま市」が誕生
18日　うるま市議会　第１回臨時議会開催
5月15日　知念恒男初代市長　就任
6月7日　石川邦吉助役・松野義勝収入役・前門幸雄教育長　就任
10月7日　うるま市非核平和都市宣言

2006

1月21日　第１回うるま市産業まつり開催
2月4日　第1回うるま市生涯学習フェスティバル開催
3月1日　うるま市章制定　19日 合併後初の農業委員選挙
8月19日　第1回うるま市エイサーまつり開催
10月8日　合併後初の市議会議員選挙　16日 第４回世界のウチナーンチュ大会　市出身者歓迎の夕べ開催
21日　第1回うるま祭り開催
12月18日　戸籍事務コンピュータ処理開始　18日 うるま市の花木等　制定

2007

3月6日　うるま市民憲章　制定
4月25日　うるま市の名産品が決定
5月12日　石川多目的ドーム落成式
9月10日　うるま市歌　制定
10月1日　粗大ごみ有料化スタート

2008

1月9日　うるま市合併記念式典
2月22日　証明書自動交付機を設置
3月3日　県営かんがい排水事業与勝地下ダム完成式典　29日 ぐしかわ看護専門学校　落成式
4月24日　津堅島ブロードバンド事業開通式
5月14日　市消防本部「通信指令業務」運用開始
10月7日　健康福祉センター「うるみん」落成式

2009

4月25日　具志川ドーム落成式
5月12日　ＩＴ事業支援センター落成式　15日 島袋俊夫市長が就任
6月7日　謝敷久武教育長　就任　18日 榮野川盛治副市長　就任
8月17日　沖縄県から「景観行政団体」としての同意を得る
11月26日　金武湾で発見された不発弾（米国製１ｔ爆弾）の爆破処理

URUMA ACADEMY
うるまアカデミー 2010

よみがえる 勝連城
CASTLE KATSUREN

勝連城は、琉球王国が安定していく過程で、国王に最後まで抵抗した有力按司、阿麻和利が住んでいた城です。阿麻和利は国王の重臣で、中城城に居城した護佐丸を1458年に滅ぼし、さらに王権奪取をめざして首里城をめざしましたが大敗を期し、滅びました。それから約550年後、勝連城跡は歴史的・文化的価値が認められ、世界遺産のひとつとして登録されました。

勝連城は、四方に眺望のきく傾斜の急な丘を取り囲んで築かれており、外敵をいち早く確認できることや、南側に良港を控えていることなど、極めて良好な立地条件を備えていました。

城は四つの曲輪からなり、各曲輪は珊瑚質石灰岩の切石を使って曲線状に築かれています。

一の曲輪は最も高いところに位置し、瓦葺きの建物やアーチ式の門があったと伝えられています。

二の曲輪には東西14.4m、南北17m規模の舎殿跡があり、覆土によって遺構を保存しています。西側には、抜け道の伝説がある「ウシヌジガマ」と呼ばれる洞穴があります。

三の曲輪は儀式などを行う広場と考えられています。

四の曲輪には、南西側に南風原御門、北東側に西原御門と呼ばれるアーチ式の門があったと伝えられ、さらに5カ所の井戸と建物跡とみられる礎石もあります。また、四の曲輪の南東側の一段高くなったところは、別名「東の曲輪」と呼ばれ、城壁に囲まれていました。水場を確保する上で、軍事的に重要なところだったといわれています。

Katsuren Castle

Katsuren Castle was home to the powerful Lord Amawari, who held out against the King of the Ryukyu up until the very end during the process when the Kingdom of the Ryukyus was on the verge of stabilizing its administration. Lord Amawari was a chief retainer to the king. In 1458, he overthrew Gosamaru, the feudal lord of Nakagusuku Castle, and then, set his sights on seizing regal power and headed toward Shuri Castle, anticipating to soundly defeat the king. However, he met his own doom instead. 550 years later, the Katsuren Caste Ruins were recognized for their historical and cultural value and registered as a World Heritage Site.

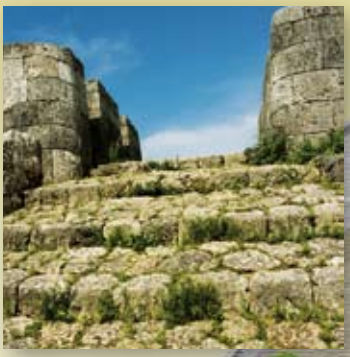
勝連城跡から見た朝日。
かつて阿麻和利もこのような美しい朝焼けを
眺めていたことでしょう。

三の曲輪から、城壁越しに中城湾を望む。

一の曲輪

二の曲輪

三の曲輪



三の曲輪の入口。中へ入ると目の前に
中城湾が広がっています。

ハエバルウジョー
南風原御門

三の曲輪の城壁からみた
二の曲輪と一の曲輪

四の曲輪

ニシハラウジョー
西原御門

東の曲輪

西原御門があったところから見た
勝連城跡。青空に城跡が浮かび上がります。

沖縄の自然の特徴は一言でいうと「多様性」にあります。面積が狭い島嶼地域に、様々な動植物が生息しており、その景観も変化に富んでいます。山あり、川あり、海ありのうるま市はまさに自然の宝庫です。

市の北側には標高204mの石川岳があり、周囲にはイタジイを中心とする天然の広葉樹林が広がっています。

うるま市と恩納村の境界を源流に市の中央部を横切って金武湾に注ぐ天願川は、昔から地域の人々の水源として、また流域の自然は憩いの場として親しまれてきました。

市の南部、太平洋に突き出すように延びる勝連半島、そこから平安座島につながる海中道路の周囲には、遠浅の静かな海が広がっており、干潮時には広大な干潟が姿を現します。海中道路の南側の沖合いには海水の浸食によってできたキノコ岩がならび、独特の景観をつくりだしています。

URUMA ACADEMY 2010
うるまアカデミー

大自然の息吹

天然の広葉樹に覆われた石川岳、うるま市のほぼ中央を横切るようにして金武湾に注ぐ天願川、勝連半島から海中道路を経て、平安座島・宮城島・伊計島・浜比嘉島、そして太平洋に浮かぶ浮原島、津堅島。うるま市の自然は沖縄の多様な自然の縮図といっていいでしょう。

Nature

The nature of Uruma City is almost a microcosm of the diverse nature found throughout Okinawa. From Mount Ishikawa covered with natural broad-leaved trees, the Tengan River traversing through almost the middle of Uruma City to flow into Kin Bay, and the "Road through the Sea," Uruma City also comprises Heshikiya Island, Miyagi Island, Ikei Island, Hamahiga Island, as well as Ukibaru Island and Tsuken Island on the Pacific Ocean.

浅瀬の海

海中道路周辺にはエメラルドグリーンに輝く浅瀬の海が広がっており、干潮時には広大な干潟が現れます。夏場の海水浴はもちろん、季節を問わずウィンドサーフィンやカイトボードなど、海洋スポーツを楽しむ人で賑わいを見せます。

トゥマイ浜

津堅島にある白い砂浜が美しいビーチ。津堅港から歩いて15 分くらいの場所にあり、ゆったりとした島の時間の中でのんびり過ごすにはぴったりの場所です。

ビオスの丘

沖縄在来の森や山々の自然、美しい蘭の花をテーマにした植物園。曲がりくねった森の中の湖を湖水遊覧鑑賞船でまわるジャングルクルーズが人気です。

野鳥の森公園

天願川河口の自然豊かな丘の上にある公園。4 階建ての展望台や遊歩道の整ったきれいな公園で、多くの野鳥が生息しています。バードウォッチングや森林浴を楽しむのに最適です。

石川少年自然の家

恵まれた自然の中で登山や自然観察、懐中電灯の明かりだけを頼りに歩くナイトウォークラリー、野外炊飯活動、星座観察等さまざまな活動をすることができます。

天願川

恩納村とうるま市の境から発して南東に流れ、金武湾に注ぐ川です。上流に山城ダム、中流に沖縄県企業局の取水施設があり、生活用水を供給しています。緑豊かな水辺に蛍や数多くの野鳥の姿を見ることができます。

URUMA
COLUMN
2

テンピはイケメンの代名詞

これは浜比嘉島の浜集落にのこる伝説。

今から150年ほどまえ、天妃松金（てんぴまつがね）という士族が後蔵根（くしくらね）の本家に居候していた。島では「テンピガニー」と呼ばれていた。松金が役職で島にきたのか、ほかの事情できたのかは不明だが、後蔵根家では客人として厚いもてなしをうけた。松金は世話になったお礼ということで、天妃という屋号を後蔵根家にさずけたといわれている。

ところで、この天妃＝テンピという言葉は、島では美男子の代名詞となっている。松金は色が白く、その姿は気品が漂い、まれにみる美男子だったらしい。そのうわさは浜比嘉島だけにとどまらず、隣の平安座島まで広がり、平安座ミヤラビ（娘）たちの心を夢中にさせたという。しかし、やがて松金は病に倒れ「クルマトーバル」に葬られた。そのときの平安座ミヤラビたちの思いを詠んだ琉歌が残っている。

テンピ降りロや　チンシワイドクル
カニが居る島や　クルマトーバル

船で島にやってきて、島に着くやわれ先に天妃降り口に殺到したものだから、膝をけがしてしまった。ここが松金がいた島だ。今は「クルマトーバル」に葬られてしまったけれど…。

平安座ミヤラビたちは、松金の墓の前に数多くの手拭いを揚げて、別れを悲しんだという。